

対位法 その1

目的：

美しい独立した線を描く事が目的
和声は垂直線、対位法は水平線。

勉強の過程：

2声対位法→3声→4声

2声対位法

第1種→第2種→第3種→第4種→第5種→2声の自由対位法

3声、4声対位法も上記同様に自由対位法まで進む。

第1種から第5種まで定旋律を用いる。

定旋律→一つの決められた旋律で、この旋律に対して旋律を編んでいく。

定旋律は絡める旋律の上においても、下においても構わない。

定旋律は全音符。1/1 (中世ではグレゴリオ聖歌、バロック時代はコラールを用いたが、ここではこだわらない。)

第1種：全音符⇔全音符 1:1

第2種：全音符⇔2分音符 1:1/2

第3種：全音符⇔4分音符 1:1/4

第4種：全音符⇔2分音符 1:1/2 タイによる掛留

第5種：全音符⇔上記の全ての方法を用いる

2声対位法/第1種

旋律を作るにあたって以下の点を留意する。

- 1、クライマックス(最高音)は1回が好ましい。
- 2、第1種では完全5度、完全4度の跳躍OK
- 3、終止形は導音に向かっての上行3度はNG、下行3度は好ましい。

対位法

1、協和音のみ

(協和音とは：ユニゾン(1度)長3度、短3度、完全5度、長6度、短6度、オクターブ)

2、声部が上の場合、曲頭は1度、5度、8度。下の場合、1度、8度

3、曲尾は1度、8度

4、ユニゾンへの出入りは反進行

5、隠伏5度、8度は厳禁

6、第1種では、平行3度、6度は3回を限度とする。

7、声部の交叉は大変良いが、第1種では一時的使用とする事。

8、反進行を多用できた方が好ましい。